

小菅 優

ソナタ・シリーズ『開花』

ピアノ・リサイタル

YU KOSUGE

PIANO RECITAL



©Takehiro Goto

バッハ、ベートーヴェン、ブラームス —
偉大なる作曲家たちの原点に迫る

PROGRAM

J.S.バッハ：ソナタ BWV963 ニ長調

J.S.Bach: Sonata in D major, BWV 963

ベートーヴェン：選帝侯ソナタ第2番 へ短調

Beethoven: Piano Sonata in F minor, Wo047, No.2, "Kurfurstensonaten"

プロコフィエフ：ピアノ・ソナタ第1番 へ短調

Prokofiev: Piano Sonata No.1 in F minor, op.1

ブラームス：ピアノ・ソナタ第3番 へ短調

Brahms: Piano Sonata No.3 in F minor, op.5

2023. **3/19 (日)** 2:00PM開演 (1:30PM開場) 兵庫県立芸術文化センター 神戸女学院小ホール
A ¥4,000 B ¥3,000 (税込/全席指定) 〒663-8204 兵庫県西宮市高松町2-22阪急西宮北口駅南改札ロスグ/JR西宮駅より徒歩15分 (阪急バス7分)

発売日

芸術文化センターチケットオフィス

☎ 0798-68-0255

10:00AM - 5:00PM

月曜休み ※祝日の場合翌日

※窓口での販売(残席がある場合)は11/13(日)より

11/12(土)

インターネット予約

<https://www.gcenter-hyogo.jp>

主催：兵庫県、兵庫県立芸術文化センター



兵庫県立
芸術文化センター



※未就学児はご入場いただけません。 ※やむを得ない事情により、曲目等が変更となる場合があります。あらかじめご了承ください。

想像力を掻き立てられる、瑞々しく、深く、美しい音

わずか10歳でヨーロッパに渡り、今に至るまで世界中で演奏活動を展開する小菅優。コンクールを経ずして、2005年カーネギーホール、2006年ザルツブルク音楽祭でデビューを果たし、18歳でリストの「超絶技巧練習曲」を録音し大ヒット。その後も活躍をつづけ、常に由緒あるホールやオーケストラの数々からのラブ・コールを受けつづけているのは、その確かな才能ゆえに他なりません。近年は、『ベートーヴェン詣』や4つの元素(水・火・風・大地)をテーマにした『Four Elements』など自らプロデュースし、取り組んできましたが、2023年から新たなプロジェクト『ソナタ・シリーズ』をスタートさせます。芸術文化センターでは、その初回、「作曲家の原点」に焦点をあてる『開花』をとりあげます。2016年「榎本大進&小菅優&クラウディオ・ボルケストリオ」以来、7年ぶりの登場となる小菅優の新たな世界をご堪能ください。

ソナタ・シリーズについて

小菅 優

モーツァルトやベートーヴェンなど、古典派のピアノ・ソナタはピアニストにとって必ず通る道だと思われていますが、ソナタの歴史を眺めると、バロックから現代まで、こんなにまで画期的な変化を成し遂げ、色とりどりのものがあるのかと改めて感心させられます。今回はソナタというテーマに基づき、様々な時代を歩む作曲家の限らない世界に挑戦したいと思います。

若さと意欲に溢れるものを紹介し(第1回)、「幻想」という自由な構成と想像力を楽しみ(第2回)、「変奏」の複雑にして、一つのテーマというところから生まれる多彩なアイデアに触れ(第3回)、単一楽章で一つの大きなストーリーを語る革命的な道のりを歩み(第4回)、そして巨匠達の晩年のこの上ない深遠な世界(第5回)でその旅を締めくくります。

ソナタという一つのジャンルから、限りなく多彩で冒険的な音楽と出会い、そしてその奥深い世界を皆さまと探る5公演を、楽しくも実りのあるシリーズにしたいと思います。

小菅 優 (ピアノ)

©Takehiro Goto

聴きどころをさきどり!

小菅優さんによる「演奏曲の聴きどころ」解説を一足先にお届けします。

シリーズ初回は、それぞれの作曲家の原点に焦点を当てます。類稀な才能を発揮している大作曲家たちの初期作品は、意欲と情熱に溢れています。私たちの持っている巨匠たちのイメージは、この初期の傑作を聴くことでより深まり、未知な一面を発見しながら、彼らそれぞれの冒険的な野心を探求します。

J.S.バッハ：ソナタ BWV963 ニ長調

バッハは10歳で孤児になり、オルガニストの兄のもとで音楽の勉強をしながら学校を卒業し、リュネブルクで様々なオルガニストの演奏に触れた後、遂に自らオルガニストとしての職に就くに至ります。ソナタBWV963はそのころ1703~4年(18~19歳)に作曲したとされ、特に口短調のフーガはすでに円熟味を感じさせます。

ベートーヴェン：選帝侯ソナタ第2番 へ短調

選帝侯ソナタはベートーヴェンが弱冠12~13歳(1782~3年)のときの作品で、ボンにおいてネーフェのもとで勉強していたころに書かれました。若いベートーヴェンの作品は技巧的ですが、ラルゴで始まるこのソナタは、「悲愴」ソナタや後のへ短調の作品(「熱情」ソナタなど)を連想させるところもあり、彼の抒情性も垣間見えています。

プロコフィエフ：ピアノ・ソナタ 第1番 へ短調

ピアニストの母親に毎日ベートーヴェンのソナタを聴かされながら育ち、この大作曲家からの影響を語っているプロコフィエフは、10歳になる前にすでにオペラを書く天才で、ペテルブルク音楽院に最年少の学生として受け入れられました。15歳(1906年)のときにこのソナタの作曲を試み、それは自分の当時の作品群の中でも最高の作品と自称するほどの出来でした。それは数年後に手を加えられ、プロコフィエフ自身により初演されたのち、1911年にソナタ作品1として出版されます。この初期の終わりにあたる作品から迸る感情と若い情熱は、この時代ならではの魅力でいっぱいです。

ブラームス：ピアノ・ソナタ 第3番 へ短調

1853年、20歳のブラームスは、尊敬するシューマンとその妻クララを訪れ、その才能は直ちに認められます。シューマンはそれから彼に様々な助言をすると同時に、彼の作品が出版されるよう大きなサポートをします。ブラームスのピアノ・ソナタはすべてこの初期時代に書かれており、その集大成のような「第3番」は5楽章という巨大な構成で、若さに満ちた激しい感情に溢れています。詩的な緩徐楽章を持ち、希望に満ちた快活なフィナーレまでアイデアに富んでいます。一つのシンフォニーを聴くように聴きごたえがある名作です。

YU KOSUGE, PIANO

高度なテクニックと美しい音色、深い楽曲理解で最も注目を浴びているピアニストの一人。9歳より演奏活動を開始し、2005年ニューヨークのカーネギーホールで、翌06年には、ザルツブルク音楽祭でそれぞれリサイタルデビューを行い、大成功を収めた。

これまでにドミトリエフ、デュトワ、小澤、ノリントン、オラモ、ノット等の指揮でベルリン響、フランクフルト放送響、シュトゥットガルト放送響、BBC響、NDRエルブフィル、サントペテルブルク響、フィンランド放送響、フランス放送響、スイスロマン管等と共演。10年ザルツブルク音楽祭で、ポゴレリッチの代役としてヘレヴェッヘ指揮カメラータ・ザルツブルクと共演。12年、紀尾井シンフォニエッタ(指揮:T.フィッシャー)のアメリカ・ツアー、またシェレンベルガー指揮カメラータ・ザルツブルクの日本ツアーに参加しモーツァルトのピアノ協奏曲全8曲を共演。13年、服部譲二指揮ウィーン室内管と共演、ウィーン・デビュー。また10年より15年まで、東京、大阪でベートーヴェンのピアノ・ソナタ全曲演奏会(全8回)を行った。さらに現在はソロだけでなく室内楽や歌曲伴奏を含むベートーヴェンのすべてのピアノ付き作品を徐々に取り上げる新企画「ベートーヴェン詣」に取り組んでいる。

録音は、ソニーから発売している『ベートーヴェン：ピアノ・ソナタ全集』をはじめ数多い。2022年5月、ライオン・ウィグルスワース指揮BBC交響楽団との新譜をソニーからリリース。

第13回新日鉄音楽賞、04年アメリカ・ワシントン賞、第8回ホテルオークラ音楽賞、第17回出光音楽賞を受賞。14年に第64回芸術選奨音楽部門 文部科学大臣新人賞、17年に第48回サントリー音楽賞受賞。2017年から4年にわたり、4つの元素「水・火・風・大地」をテーマにしたリサイタル・シリーズ『Four Elements』を開催し好評を博した。

《チケットご購入のお客様へお願い》新型コロナウイルス感染予防対策にご協力をお願いします

※芸術文化センターでのご購入時には、来場者情報把握のため、先行予約会員(無料)へのご登録をお願いしております。

※なお、お一人様2枚までとさせていただきます。

※入場者数を制限して販売する場合があります。

※37.5℃以上の発熱がある方は入場をお断りさせていただきます。

※マスクを着用されない方はご入場いただけません。(マスクシールド不可)

※感染の再拡大等により、公演の中止や、公演内容、座席配置等が変更となる場合がございます。

ご来場前にウェブサイト掲載の(当センターをご利用のお客様へ)をご確認くださいませようお願いします。 →

